

二色小学校・第五中学校区 義務教育学校設置について

令和3年9月
貝塚市教育委員会

次第

I 義務教育学校について(説明)

- 1 第五中学校区の小中一貫教育について
- 2 義務教育学校とは
- 3 二色小学校及び第五中学校の現状
- 4 義務教育学校設置の目的及び今後のスケジュール(予定)

II 質疑応答・意見交換

1 第五中学校区の小中一貫教育について

平成24年度から二色小学校・第五中学校を研究モデル校として貝塚市連携型小中一貫校がスタートしました。

○教育目標

自ら学び、手をつなごう友と、きりひらこう未来

○めざす子ども像

- ①まず自分で考え、行動します。
- ②友達と手をつなぎます。
- ③自信を持ち、夢に向かってチャレンジします。
そして、「自分らしさが発揮できる学校」をつくります。

1 第五中学校区の小中一貫教育について

次の①～③を3つの柱とし、『9年間を見通した特色ある教育』を実施してきました。

①共に学ぶ力の育成

- ・中学校英語科教員と小学校外国語科担当教員によるT・T授業※
- ・英語検定の小中共同実施

②伝え合う力の育成

- ・体育大会、運動会の双方間の参加
- ・小学6年生の中学校体験(登校から部活動まで)

③キャリア教育の充実

- ・小中合同ボランティア活動
- ・教職員の合同進路指導研修

※T・T(ティーム・ティーチング)授業とは、複数の教員が役割を分担し、協力しながら指導計画を立て、指導する方式

1 第五中学校区の小中一貫教育について

第五中学校区のこれまで進めてきた小中一貫教育をさらに発展させる方策を検討しました。

- ・小中一貫校及び義務教育学校の現状について学ぶため、府下にある4校を視察。教育委員会内で両者について、比較・検討を進めました。
- ・令和3年3月議会において、「教育委員会は今後、第五中学校区に施設一体型小中一貫校または義務教育学校を設置することを検討する。」と説明しました。
- ・令和3年6月、市長・教育長・教育委員などが出席する総合教育会議にて、義務教育学校を設置する方向とし、保護者や地域みなさんに説明を行い、準備を進める予定としました。

2 義務教育学校とは

- 平成27年 学校教育法改正

「学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、小中一貫教育を実施することを目的とする義務教育学校の制度を創設する。」

- 義務教育学校とは

小学校段階に相当する6年の前期課程及び中学校段階に相当する3年の後期課程を修業年限とする学校

- 施設一体型とは

小学校と中学校を同一敷地内の同一施設に設置した学校

2 義務教育学校とは

- 施設一体型義務教育学校の特長

- ①1年生から9年生(小学1年生から中学3年生)までが、一つの学校に通う。

- 二色小学校の校舎を一部改修し、小中学生が学べる学校をつくります。

- 特別教室(美術室・技術室・中学生用図書室)の設置
- 部室の設置
- 放課後、クラブ活動中でも小学生が安全に遊具で遊べるような工夫
- トイレの洋式化と中学生仕様のトイレを設置
- 1学年または2学年ごとに、分割教室を確保(ゆとりのある教室配置)

2 義務教育学校とは

- 施設一体型義務教育学校の特長

- ②従来中学校から始めることを

- 小学校段階から取り入れることができる。

- 学力向上のための様々な取組みを行うことが可能となります。

- ・小学校高学年から、学科ごとに専科の教員が授業を受け持つ「教科担任制」の取り入れ。

- ・小学校高学年から、中間テストや期末テストの定期考査に近いテスト形式の取り入れ。

- ・小学生高学年から、部活動への参加。

2 義務教育学校とは

- 施設一体型義務教育学校の特長

- ③義務教育学校の教職員は一体的に教育活動に取り組む。

- 教職員が一体的に教育活動に取り組めるよう、環境を整えます。

- ・学校組織は1つで、一人の校長の下、前期課程と後期課程を担当する教職員が協力して、一貫した方針で学習指導を進めます。

- ・前期・後期課程の教員が、1年生から9年生までの子どもたちに関わり、前期・後期間を柔軟に行き来します。

2 義務教育学校とは

・義務教育学校に移行することにより、想定されるメリット・デメリット

- ①教科担任制を早期に取り入れることによる学力の向上
- ②学校段階間の接続の円滑化による生徒指導上の諸問題の解決
- ③幅広い児童生徒間の交流による人間育成

デメリット

- ①前期段階から教科担任制を取り入れることによる、担任と過ごす時間の減少
- ②6年生時の区切りがなくなり、リーダー性を育てる期会の減少
- ③小学校と中学校の差が不明確

2 義務教育学校とは

- 大阪府下の義務教育学校

池田市 ほそごう学園

守口市 さつき学園

東大阪市 義務教育学校池島学園

義務教育学校くすは縄手南校

八尾市 高安小中学校

羽曳野市 はびきの埴生学園

和泉市 南松尾はつが野学園

などがあり、他にも開校が予定されている学校があります。

2 義務教育学校とは

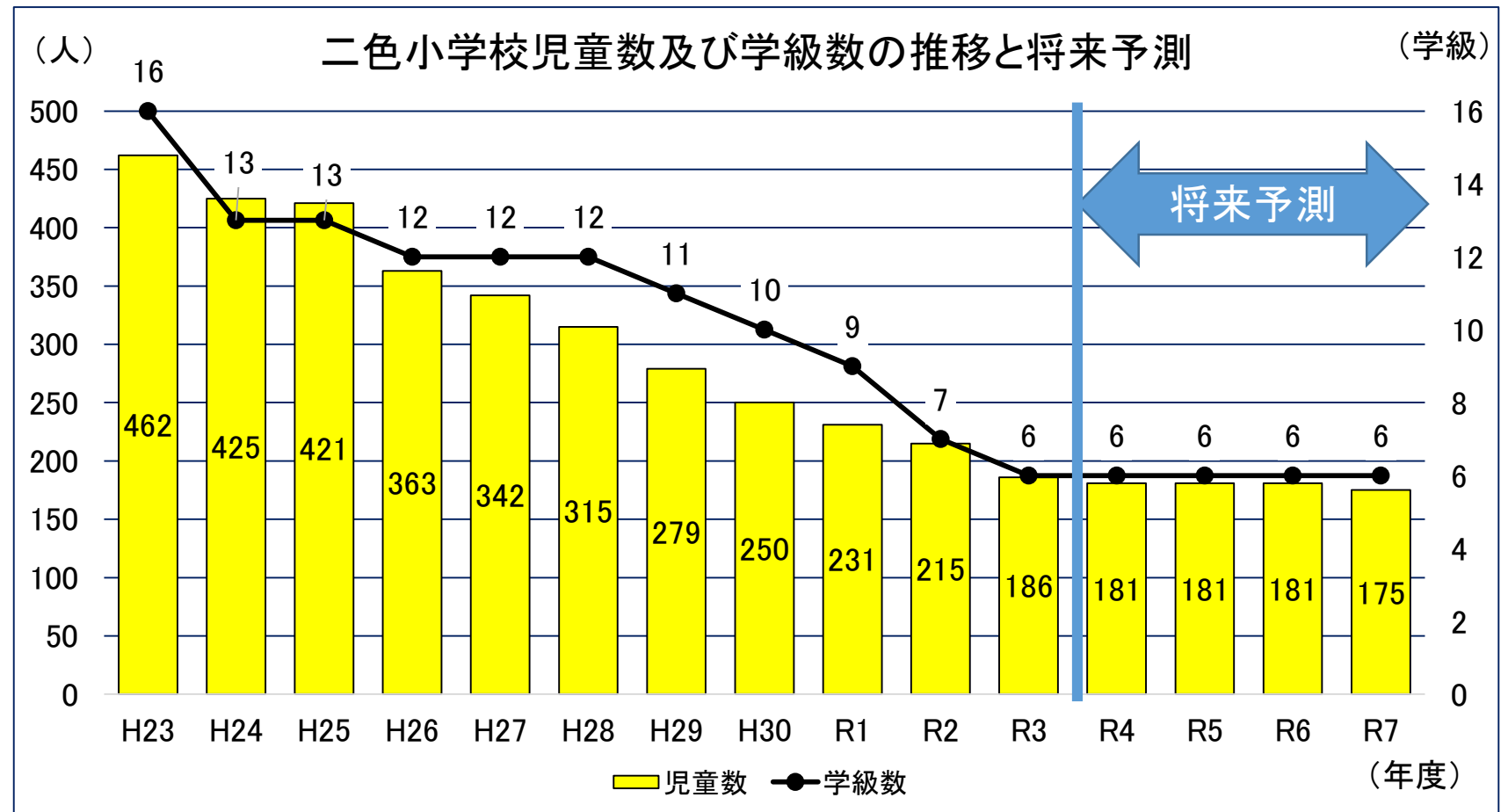
学校名(市)	教育目標	学年の区切り設定	制服その他
ほそごう学園 (池田市)	確かな学力と豊かな人権感覚の育成を仲間とともに	前期(6年間)後期(3年間)課程としながら、ファーストステージ(1~4年)、セカンドステージ(5~7年)、サードステージ(8,9年)にブロック分け。	前期課程:私服 後期課程:制服
さつき学園 (守口市)	自らを高め 共に学びともに育ち たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成	前期(6年間)後期(3年間)課程としながら、4.3.2年制にブロック分け。	制服は、9年間統一。
義務教育学校池島学園 (東大阪市)	豊かな心を持ち、自ら考え、たくましく生きる児童・生徒の育成	前期(6年間)後期(3年間)課程	前期課程:私服 後期課程:制服
高安小中学校 (八尾市)	「誠実・規律・自治」の実現に努める。	前期(6年間)後期(3年間)課程としながら、学習基礎定着期(1~4年)、学習充実期(5~7年)、学習発展期(8,9年)にブロック分け。	前期と後期でブレザー襟のラインの有無で違いをつけている。
はびきの埴生学園 (羽曳野市)	たくましく生きる力を育み、未来へつながる道を切り拓く子どもを育成する	I期(1~4年)、II期(5~7年)、III期(8,9年)にブロック分け。	制服は、9年間統一。
南松尾はつが野学園 (和泉市)	地域に誇りをもち、心豊かでたくましく、自ら学ぶ子どもの育成	前期(6年間)後期(3年間)課程としながら、ファーストステージ(1~4年)、セカンドステージ(5~7年)、サードステージ(8,9年)にブロック分け。	前期と後期でブレザー襟のラインの有無で違いをつけている。

3 二色小学校及び第五中学校の現状

・二色小学校の児童数及び学級数

二色小学校の児童数は、10年間で276人、約60%減少しました。これに伴い、学級数も10学級減少しています。

令和4年以降は、1学年30人前後の児童数がしばらく継続する見込みです。



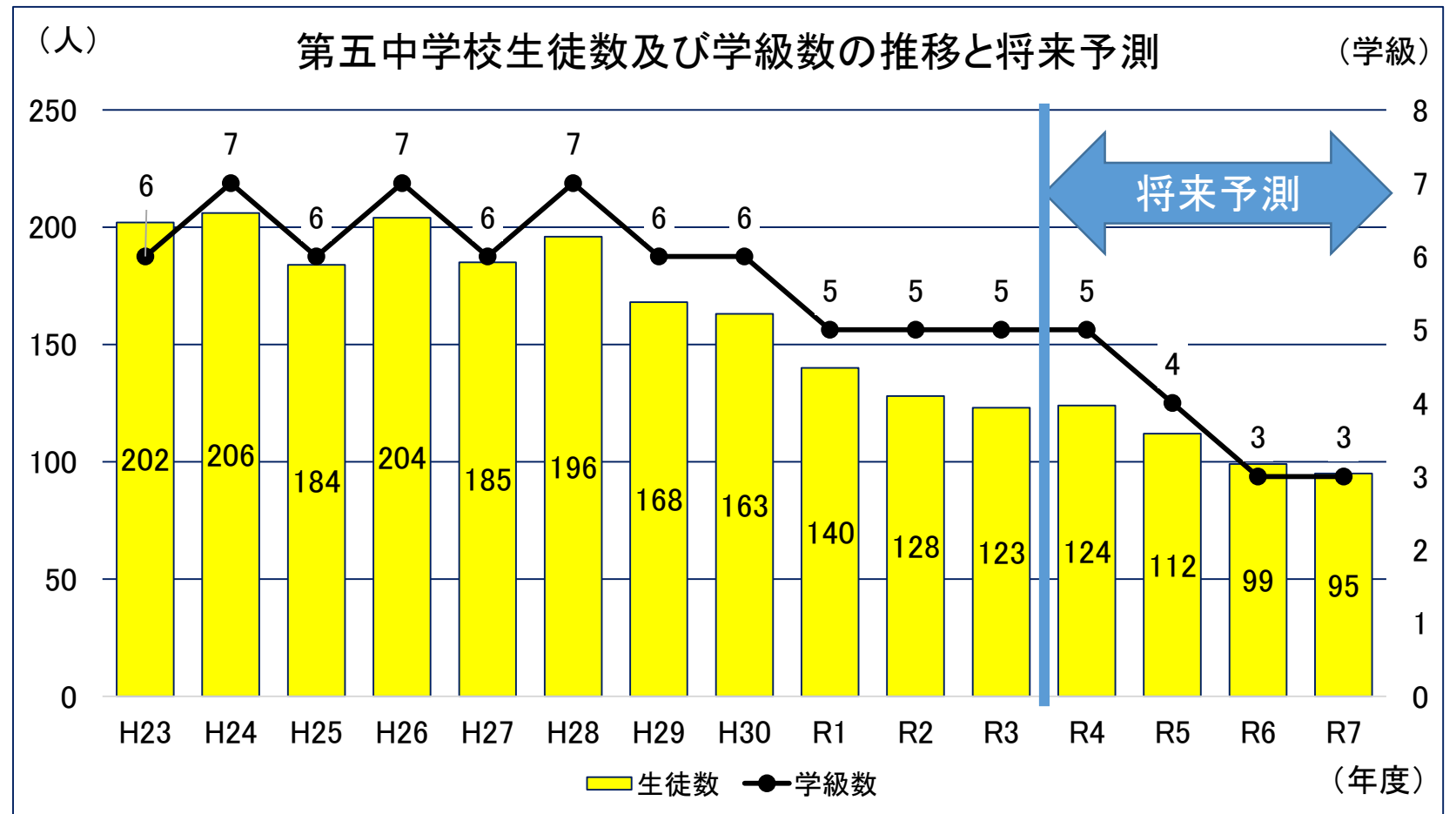
3 二色小学校及び第五中学校の現状

・第五中学校の生徒数及び学級数

第五中学校の生徒数は、10年間で79人、約40%減少しました。これに伴い、学級数も3学級減少しています。

令和6年度以降は、1学年1学級の全3学級となります。

これにより、教員の配置数が、校長・教頭を含め9名となり、教科分の教員数を下回ることとなります。



4 義務教育学校設置の目的及び今後のスケジュール(予定)

- 義務教育学校設置の目的

- ①これまで実施してきた小中一貫教育をさらに発展させるため、小中学校9年間を通じた柔軟で系統的な教育課程を実施する。
- ②多様な異学年交流を通して、中1ギャップの改善や社会性を醸成する。
- ③本市の小中一貫教育モデル校として、独自の学習活動を実施し、各校が事例を取り入れることで、市全体の学力の底上げを図る。

4 義務教育学校設置の目的及び今後のスケジュール(予定)

○令和3年度

- ・義務教育学校設置説明会の開催
義務教育学校についての説明と意見交換
- ・説明会にて意見交換終了後、義務教育学校設置準備委員会の立上げ
委員会において、学校名、教育内容、制服などを決定

○令和4年度

- ・必要工事の設計
- ・準備委員会に教員を含めたワーキンググループを設置し、学習活動の詳細決定

○令和5年度

- ・必要工事の実施
- ・貝塚市学校設置条例の改正(義務教育学校の設置)

○令和6年4月 開校、コミュニティスクールの導入

第2回 二色小学校・第五中学校区 義務教育学校設置説明会

と き 令和3年10月20日(水)

19時～20時

ところ 二色小学校屋内運動場

内容 第1回説明会における、ご質問
ご意見に対する説明